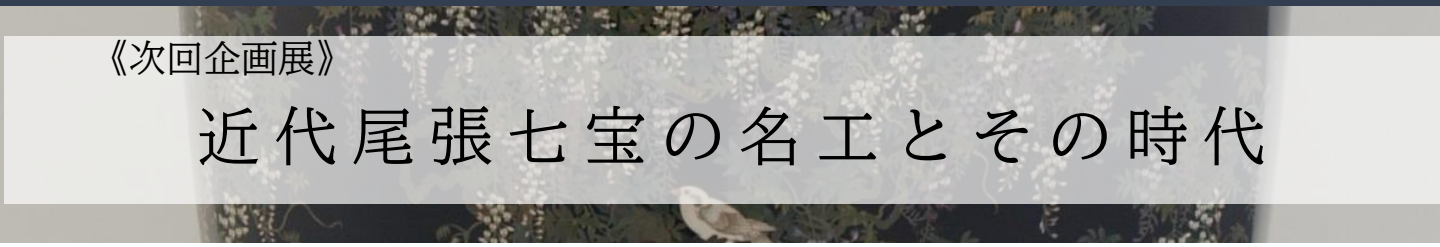


《次回企画展》

近代尾張七宝の名工とその時代

◆ 会　　期　　2022年9月17日（土）～ 2022年12月11日（日）

◆ 開館時間　　午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）

◆ 休 館 日　　月・火曜日（但し、祝日は開館）

◆ 入 館 料　　一般800円／大学・高校・中学生500円／小学生300円
＊障害者手帳をお持ちの方と付き添い者１名は50%割引

◆ 主　　催　　清水三年坂美術館

◆ 概　　要

日本の近代七宝は、天保４年（1833）に尾張藩士の梶常吉が七宝焼（有線七宝）の制作に成功したことによって始まりました。後に、尾張の遠島村（現愛知県あま市七宝町遠島）の林庄五郎がその技法を伝授されたことを機に、尾張は近代七宝の一大産地となっていきます。開国後、販路を海外に求めた近代七宝は、万国博覧会へも出品されて高い評価を得ます。需要が拡大するとともに尾張の職人は各地に招聘され、七宝は飛躍的に技術革新を遂げていったのです。

当館には、近代七宝でも特に明治20年代から大正にかけて、七宝技術が最も円熟した時代に制作された作品を所蔵しています。中でも尾張七宝は、透明感のある茄子紺地を背景に、細緻な金属線と色鮮やかな釉薬で四季折々の花々や鳥たちを情趣豊かに描いた作品が数多くあり、幻想的な魅力をたたえています。

本展覧会にて、林小傳治、川出柴太郎、粂野締太郎といった尾張を代表する名工の作品を中心に展示致します。職人たちの類まれなる努力と、西洋との出会いによって生まれた結晶ともいえる作品の数々を、どうぞご高覧ください。

◇ キャッチコピー

「尾張七宝の輝き！西洋との出会いと躍進」

［広報用の写真使用について］

当展覧会の広報記事をご掲載頂けます場合は、出品作品の写真（デジタル画像データ）を無償でお貸し出しいたします。ご希望の方はメールでinfo@sannenzaka-museum.co.jp（広報担当：原田・安見）までご連絡ください。なお、ご使用に際しては下記の注意事項をご確認お願いいたします。

・写真にはキャプションをつけてください。
・写真の二次使用は禁止いたします。
・掲載物が発行される前に、校正の段階で当館に確認をとってください。
・掲載物を2部寄贈してください。

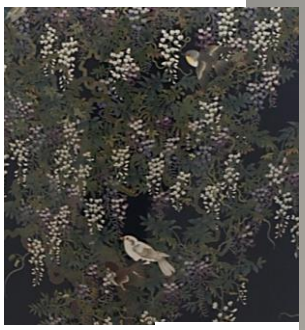
◆ 主な展示作品

《四季草花図花瓶》　無銘　H. 31.1cm

有線七宝とは、細い金属線を素地の上に置き、その中にガラスの釉薬を入れ、焼き上げる技法です

茄子紺地を背景に、季節の草花が細かくしきつめられています。
四季を一つの作品に閉じ込めた逸品！

これぞ明治工芸の雅の極致！
小さな鳥たちの愛らしい姿も♪



部分拡大

林喜兵衛（はやし きひょうえ 1848-1931)は、尾張七宝を支えた名工の一人です。
国内外の博覧会で、多くの賞を受けました。

《百華文大花瓶》（一対） 林喜兵衛（安藤七宝店）H. 91.4 cm

《蝶図飾り壺》林小傳治　H. 11.6 cm

蝶の模様を細かく再現！

林小傳治（はやし こでんじ 1831-1915)は七宝の製法を学びその後、独自の工夫を加えて七宝製品を製作します。七宝の販路を海外へ求め、外国人に七宝を販売したはじめての人物です。

粂野締太郎（くめの ていたろう 1861-1939)は、非常に細密な有線七宝を得意としました。そのため下のように複雑な形の鉢にも七宝を施すことが出来ました。

《菊蝶尽し花弁形鉢》粂野締太郎　H. 9.0　Dia. 22.5 cm

拡大すると・・・細かな蝶が舞う内側！！
会場にて必見です！

《本展の見どころ》
◇七宝焼きとは思えないほどの、細かな図柄の逸品が勢揃いします。
◇七宝技術の伝来以後、技術を高めていった職人の仕事に触れることが出来ます。
◇色彩豊かに表現された作品は、深淵で幻想的な世界が広がっています。